

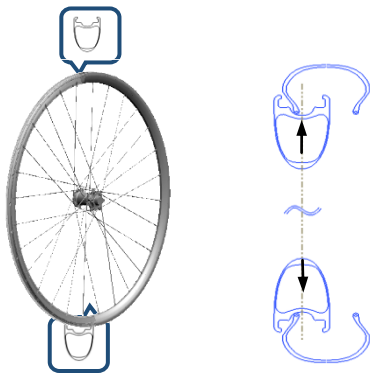
## チューブレスタイヤ

Giant チューブレスタイヤは、タイヤの空気保持特性を向上させるために、ケーシングの内側にコーティングを使用しています。このコーティングは、タイヤレバーによる損傷を受けやすいので、タイヤレバーを使うことなく、あるいは、Giant の特別に設計されたチューブレスタイヤレバーを使って、タイヤの取り付け/取り外しを行うことを推奨します。

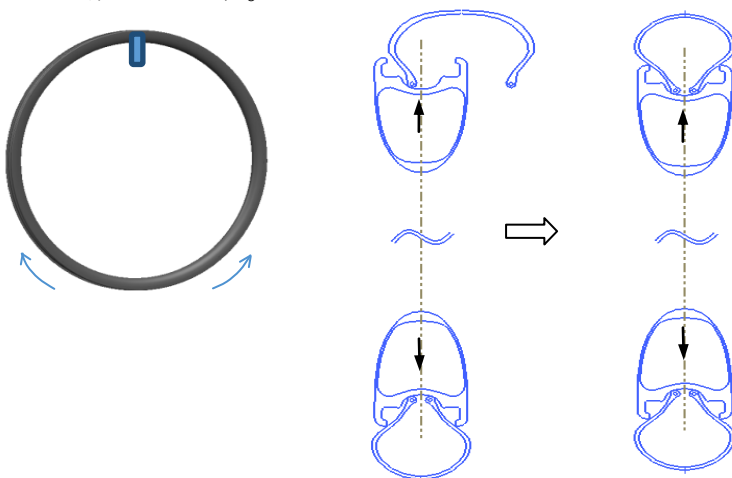
Giant チューブレスシステムは、適切な空気の保持のためのシールラントを使用する必要があります。

### チューブレスタイヤの取り付け

1. 反対側の膨張バルブから始めて、最初のタイヤビードをリムセンターチャンネルに取り付けます。リムのあなたの方に回して、バルブの適切な側のリムセンターチャンネルにそのビーズの残りの部分を押ししてください。



2. 反対側のバルブから始めて、リムセンターチャンネルに他方のビードを取り付け、バルブを動かします。



3. タイヤシーラントを追加する前に、両方のビーズがリムに着座するまで、タイヤを膨らませます。リムまたはタイヤの最大圧力を超えないようにしてください リム上のタイヤの適正な着座を目視確認します（リムのとエッジのタイヤの安全ラインは同心でなければなりません）。

- **注 1**：両方のビーズがリム上に着座するまで、タイヤとリムは気密性ではありません。空気は、初期膨張時にシステムから漏れることがあります。
  - **注 2**：初期膨張時における高容量空気流動補助。問題がある場合は、付属の小さな工具を使ってバルブのコアを取り外すか、**Giant** コントロールタンクまたは空気圧縮機を使って膨らませてください。
  - **注 3**：**Giant** チューブレスシステムは、適切な空気の保持のためのタイヤシーラントを使用する必要があります。適切な量のシーラントが追加されるまで、乗ろうとしないでください。
4. 初期膨張を達成後は、ゆっくりと完全にタイヤを収縮させ、次の手順に従い、システムにシーラントを追加します。問題がある場合は、**FAQ** を参照してください。
  5. バルブを介してシーラントを追加するのが、非常に清潔で、とても簡単です。これを行うには、収縮したタイヤで、付属の工具を使ってネジを緩め、バルブから完全にコアを取り外します（まだ、行っていない場合）。
  6. 開ける前に、シーラントボトルを振り、微粒子が液体中に分散されていることを確認します。
  7. ボトルにニップルを使って、または、独自の方法で、コアレスバルブを介して、シーラントを着座したタイヤに追加します。
    - **注**：シーラントの量については、シーラントメーカーの推奨に従ってください。シーラントが多過ぎると転がり効率を減らす可能性があり、材料のシール機能が強化されません。また、シーラントが少なすぎると漏れが発生します。推奨される量は、サイズに依存しますが、**30~60mL** です。
    - **注**：**Giant** が提供するシーラント、または、**Stan's NoTubes** により製造されたシーラントのみを使用してください。他のブランドのシーラントは、**Giant** のチューブレスシステムにより承認されておらず、その性能は保証されず、保証が無効になります。
  8. 付属に工具を使って、チューブレスバルブコアを再取り付けします。バルブコアがしっかりとバルブ内に着座していることを確認します。誤った再取り付けにより、システムが気密されず、突然の収縮につながる可能性があります。
  9. バルブに取り付けられたバルブコアを使って、「開」位置にあることを確認し、タイヤ上に記載される最大圧力まで膨張させます。これは、タイヤ内のシーラント分散を補助するためです。
  10. ステップ 8 に間、シーラントが、まだ完全にタイヤの内側を覆っていないので、いくらかの空気が漏れが発生する可能性があります。これに対処するために、手で車軸により車輪を保持し、ゆっくり車輪を回して、回転することにより車輪を振ります。別の方法は、短時間自転車に乗ることです。乗る前に最小膨張圧力を必ず確認してください。これにより、シーラントが拡散し、空気を逃がすどんな小さな穴を埋めることができます。
  11. 乗車時圧力にタイヤを膨らませ、車輪を再取り付けします。自転車の乗車準備ができました。
  12. 引き続き問題が発生する場合は、さらなる支援のため、**Giant** 正規販売店にお問い合わせください。

## チューブレスタイヤの取り付けに関する FAQ

シーラントが薄く、システムをシールしているように見えません。

- Giant のシーラントは、乳白色の液体です。使用前に、粒子が液体中に分散することができるように十分にシーラント容器を振ってください。
- 適切な保管および交換頻度については、シーラントサプライヤー勧告に従ってください。

初期膨張（完全に着座したビーズ）を達成することができません。

- 膨張させる前に、両方のタイヤビードと一緒にリムセンターとバルブの周りに挟まれていることを確認します。
- 開いたバルブを通して、少量（15cc）のシーラントを追加します。これにより潤滑され、より簡単にタイヤをシールすることができます。
- ステップ 4 の注 2 の推奨時事項に従ってください。

タイヤを取り外す方法は？

- タイヤを完全に収縮させます。タイヤを回して、両方のタイヤビードをリムエッジからリムのセンターチャンネルに押し込みます。リムの上部に 1 つのビードを押し、チューブレスバルブから、ビードを完全に外れるまでリムを回します。再度、バルブから、他方のビードを押し、リムを回して、取り外します。これでタイヤは外れます。タイヤレバーを使用する必要がある場合は、Giant チューブレスタイヤレバーを使って、タイヤケーシング、タイヤビードまたはリムを損傷しないようにすることを推奨します。

梱包または輸送により、タイヤビードが変形し、初期膨張を達成できません。

- 車輪/タイヤアセンブリ内に内部チューブを取り付け、最大圧力まで膨張させ、12 時間放置します。タイヤは、変形しないはずですが。

タイヤのパンクは、チューブタイプまたはチューブレスシステムにおいて不可避です。路面に注意を払う、および、パンクを引き起こす可能性がある明白なアイテムを避けることにより、タイヤパンクの危険性を減らすことができます。

タイヤには、目視確認できるパンクはありませんが、空気が漏れ続けています。

確認するために次のステップに従ってください：

- バルブの気密性を確認します。バルブナットの過度の締め付け、安全ではないバルブコア、または、シーラントの付着が一般的な問題です。
- 十分な液体シーラントがあることを確認します。必要に応じて、更に 15cc 追加します。
- タイヤを取り外し、高圧リムテープの亀裂または切断、特にスポーク穴のエッジを確認します。また、タイヤを取り外しているときに、バルブのゴムがセンターチャンネルに適切に着座し、ゴムまたはテープに損傷がないことを確認します。
- リムの亀裂または他の損傷を確認します。

タイヤがパンクした場合、損傷を引き起こす部分を削除する必要がありますか？

- はい、損傷部分の削除を推奨します。そうしないと、タイヤに更なる損傷が発生する可能性があります。
- パンクが、シーラントを機能させるには大きすぎる場合、必要に応じてブート材料を使ってタイヤケーシングを修復し、緊急時の解決のための内部チューブを取り付けます。
- シーラントが動作するよりも穴が大きすぎる場合は、タイヤ構造が損なわれています。タイヤパッチや内部チューブが機能する場合でも、**Giant** は、その状態でタイヤの機能性と乗車安全性を保証することはできません。